

第8回国際シンポジウム（現代韓国研究センターとの共催）

テーマ：「東アジアにおける『強靱』な権威主義体制の未来」

日時：2014年12月13日（土）13：30～17：45

場所：東館6階 G-SEC Lab

使用言語：日本語、中国語、韓国語（同時通訳）

【プログラム】

13：30 趣旨説明と問題提起

高橋伸夫（慶應義塾大学東アジア研究所所長）

13：45 セッション 中国の体制とその展望

司会者：小嶋華津子（慶應義塾大学）

報告者：加茂具樹（慶應義塾大学）

「中国共産党の挑戦：『生き残り』なのか『先延ばし』なのか」

金興圭（韓国・亞洲大学）

「China 's Changing Foreign Policies under Xi Jinping」

討論者：冷則剛（台湾・中央研究院）、

唐亮（早稲田大学）

14：55 セッション 北朝鮮の体制とその展望

司会者：西野純也（慶應義塾大学）

報告者：方浩範（中国・延辺大学）

「朝鮮式社会主義体制に対する考察」

朴碑重（韓国・統一研究院）

「金正恩の権力世襲はいかに成功したのか

：権力・財の再編成過程における内部的政治力学と対外行動」

討論者：平井久志（立命館大学）、

小牧輝夫（大阪経済法科大学）

< 休憩 >

16：15 ラウンドテーブル 『強靱』な権威主義体制と東アジアの国際関係

司会者：小此木政夫（九州大学）

参加者：冷則剛、金興圭、方浩範、朴碑重、添谷芳秀（慶應義塾大学）

17：45 閉会

【概要】

今回のシンポジウムは、現代中国研究センターが主催する第8回国際シンポジウムであり、また同じ東アジア研究所に所属する現代韓国研究センターと初めて共催するシン

ポジウムとなり、これによって東アジア研究所の下部組織による連係体制が構築された。まず高橋伸夫所長・現代中国研究センター長がシンポジウムの趣旨説明と問題提起を行った。第1セッションでは加茂報告と金報告が中国の体制維持にメスを入れた。第2セッションでは、北朝鮮の体制維持が取り上げられ、最後のラウンドテーブルでは、報告者はそれぞれの専門分野から東アジア地域における国際関係の展望を語った。中国の民主化の可能性、「中国の夢」が描く方向性、そして中朝関係、日中関係の大きな課題、地域の安全保障を大きく左右する米中関係など多くの話題について議論が展開され、専門を越えた意見交換ができ、フロアからも熱い関心が寄せられた。